

# こうのす民報

## 議会報告版

日本共産党鴻巣市委員会の見解を紹介します。

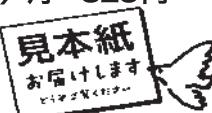
**日本共産党鴻巣市議団**  
**竹田えつ子** すわみつえ  
 ☎542-7072 ☎507-4151  
 FAX542-7101 FAX596-9440

本当がわかる明日が見える

## しん赤旗

- 毎日配達の日刊紙／月3,497円
- 毎週配達の日曜版／月 823円

憲法、社会保障、原発、雇用、  
 TPP…「本当のことが知りたい」  
 その思いにこたえる新聞です。  
 蓋しに役立つ情報も満載です。



市民要求の実現に  
 全力でがんばります

(議会に臨む竹田・すわ市議)

鴻巣市議会6月定例会が、6月8日から24日の会期で開会されました。竹田えつ子市議とすわみつえ市議は、市民の切実な願いを届けるために力をつくしました。

安倍政権が戦後最長95日間も延長してまで、今国会で成立を強行しようとする「安全保障関連法案」に反対の世論が急速に高まっています。違憲の法案の成立は許されず、「戦争法案」は会期を延長して成立させるどころか、ただちに廃案にすべきです。

鴻巣市議会6月定例会に、鴻巣・憲法9条の会と新日本婦人の会の2団体から「安保関連法案の廃案を求める請願」が出され、6月8日の本会議で審議されました。鴻巣市議会6月定例会に、鴻巣・憲法9条の会と新日本婦人の会の2団体から「安保関連法案の廃案を求める請願」が出され、6月8日の本会議で審議されました。

全国各地の地方議会で「廃案を求める意見書」と「慎重審議を求める意見書」の採択が広がっています。日本共産党市議団は鴻巣市議会でも一点共同で運動を一步でも進めたいと考え、他会派にも働きかけ、「慎重審議を求める意見書」が全員一致で採択されました。

廃案にするまで力を合わせましょう。

## 戦争法案

# 「安全保障関連法案」の慎重審議を求める意見書採択



「戦争させない」オール埼玉総行動(5月31日北浦和公園)

「こども・子育て支援法」の制定により、鴻巣市議会6月定例会に、保護者の働く時間によって、保育時間を認定する条例改正がされました。

保育所の開所時間は7時から19時までですが、保育標準時間を7時半から18時半まで、短時間保育を8時半から16時半までと認定を入れさせる場合は、30分

## 子育て支援に逆行する時間外保育料徴収

「こども・子育て支援法」の制定により、鴻巣市議会6月定例会に、保護者の働く時間によって、保育時間を認定する条例改正がされました。

保育所の開所時間は7時から19時までですが、保育標準時間を7時半から18時半まで、短時間保育を8時半から16時半までと認定を入れさせる場合は、30分

（1ヶ月）1,800円の時間外保育料を払う内容です。また、保護者の都合で、契約した保育時間以外にお迎えなどで遅刻した場合は、10分50円も払うようになります。

消費税増税は社会保障の為としながら、子育て世代に時間外保育料の負担を増やす今回の条例改正に、日本共産党は反対しました。

## 総合病院誘致は住民の声を生かして

県全体で1502床の増床計画が出され、すでに順天堂大学が800床を建設することが決まりました。第2次公募に上尾中央医科グループが応募をする確認は取れていません。

すわ議員は、赤見台近隣公園に病院ありきで進められる「公園再整備基本構想」に148通もの意見書が寄せられたこと。その内の40通でワークショップに図る意見をどう生かしていくのか。市の姿勢を質しました。

県医療審議会が7月中旬に開催予定となっていました。日本共産党は、第2次公募の状況を確認しながら、住民の声を生かした病院建設となるよう力をつくします。

## お気軽にどうぞ 法律・生活相談

毎月第4金曜日／日本共産党鴻巣市委員会事務所 7月24日(金) 13:30~15:00  
 法律相談の場合あらかじめ予約をお願いします。問い合わせは竹田えつ子、すわみつえ

6月議会  
一般質問

# 市民の声と福祉の心を届けました

こども、障がい者に  
医療の拡充を



竹田えつ子議員

難病患者手当は元に戻すこと

鴻巣市は、難病患者手当を今年の1月から5000円を1000円に削ってしまいました。患者の方々からは、他の病気の医療費にお金がかかり大変という声がたくさん寄せられています。元にもどすことを求めて質問しました。

市は、難病患者の方々の現状は真摯に受け止めると答えつつも、元にもどす考えはないとした。

誰もが安心できる  
介護サービスに



すわみつえ議員

第6期介護保険改定により保険料の見直しがされました。低所得者にわずかな減額があつたものの大半が増額となっています。すでに高齢者の負担能力を超えてます。また、利用料の負担が重くサービスを控える高齢者が多いため市独自の減免制度を求めました。

市独自の減免は考えていないとの答弁でした。18年度から要支援者の訪問介護とデイサービスが、介護保険ではなく、

市は、入院に限らず食事は日常の生活でかかる費用であり、世帯の所得状況で軽減が行なわれており、市独自に補助する考えがないと答えました。

これまで、こども・ひとり親家庭の医療費は全額無料でした。しかし、今年の4月から、入院食事代を自己負担させています。昨年度は、これらに係る費用は約250万円でした。ひとり親、特に母子家庭は経済的にも大変です。子育てを支援するというなら元にもどすことを求めて質問しました。

市は、入院に限らず食事は日常の生活でかかる費用であり、世帯の所得状況で軽減が行なわれており、市独自に補助する考えがないと答えました。

「消費税は福祉の為  
はゴマカシ」

そもそも消費税は、福祉の為に使ったとして増税しました。鴻巣市に、地方消費税交付金として、今年度、15億8700万円、昨年より約5億円増額されています。にも関わらず、福祉の支えが必要な難病患者、重度心身障がい者などの福祉予算を削つたり、こども・ひとり親家庭の入院食事代の負担を増やすなど、市の姿勢が問われます。

日本共産党は、引き続き「福祉の心」を届けています。

選挙管理委員長への質問

**投票率向上と高齢化社会に  
対応した投票所に**

18歳選挙権行使に向けた投票率の向上、年を重ねても安心して投票できるよう投票所の改善などについて、竹田えつ子議員が質問をしました。

選挙管理委員長は、選挙は民主主義の根幹をなすものであり、自らの意思を政治に反映させることが大事であり、関係機関と連携しながら投票率向上について務めていくこと。高齢者でも書きやすい2Bの鉛筆をふやしたり、車椅子でも気兼ねなく投票できるように改善したいと答えました。



日本共産党は、誰もが安心して介護サービスが利用できるよう、国に国庫負担割合の引き上げを市が求めることと、独自の減免制度を行なうこと、引き続き求めていきます。

重度心身障がい者  
医療費補助を

埼玉県に合わせて、鴻巣市も4月から、新たに65歳になって、重度心身障がい者になった方の医療費助成をなくしてしまいました。市独自に助成することを求めて質問しました。

市は、重度心身障がい者医療費助成制度は、これまで県の2分の1補助があつて実施していたが、県からの補助がなくなつたため、市独自の補助をする考えはないと答えました。

生活道路の改良を

松原3・4丁目の市道B10号線の道路改修の見通しと、馬室の七曲りといわれているB376号線と接続するB360号線について質問しました。

市の答弁は、B10号線は、2018年以降に着工の見通しであること、B376号線・B360号線は、今年度、道路等整備箇所検討委員会で評価していくとしました。

これからも、みんなの声を届けています。

課税所得の1割以上も払う国保税の引き下げと、低所得者の医療費窓口負担の軽減を行う事を求めて質問しました。

市は、医療費の増加分を賄う為に、国保税の引き下げは考えていないと答えました。また医療費窓口負担の軽減は、入院した場合、生活保護基準以下で、預貯金が生活保護基準の3ヶ月以下であれば免除制度があると説明しましたが、鴻巣では、適用された例がありません。引き続き求めていきます。

国保税の引下げと  
医療費窓口負担の軽減を